

令和2年度第4回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：地区防災計画を広げよう！
- 2 日時：令和3年1月20日（水）13：00～14：50
- 3 場所：作州民芸館（津山市西今町18）
- 4 参加者：地区防災計画の作成に携わった地域住民や専門家、中間支援組織など5名

5 知事挨拶

地区防災計画の作成に携わった皆さんから、計画作成に携わって感じたことやその必要性、県内に広めていくための具体的なアイデアや必要な取組などについてお話を聞きしたい。

6 発言内容等

【自己紹介・活動など】

- ・まちづくり協議会の防犯防災部会で避難誘導班長をしている。防災の取組は続けることが大切。子どもたちにも参加してもらえるような魅力ある取組となるよう工夫したい。
- ・まちづくり協議会の事務局長をしている。協議会の立ち上げ当初から関わっており、国・県の地区防災計画作成モデル事業では、専門家との調整や計画の取りまとめを行った。
- ・地元市役所の危機管理部門に所属し、行政の立場から月1回のまちづくり協議会定例会に参加している。
- ・NPO法人に所属し、地域のまちづくり活動をサポートしている。様々な事例紹介を行い、住民主体の取組となるようサポートしている。
- ・大学に勤務しており、地区防災計画作成のアドバイザーとして携わった。地域の防災活動、組織の防災力向上を研究テーマにしている。地域の皆さんと一緒に課題を解決していく中で、新しいモデルや取組が出来あがり、それを広げていく進め方が重要と考えている。

【計画作成に携わって感じたことなど】

- ・自分が住む地域で災害が起きるとは思っていない人が多いが、専門家の話を聞き、自分たちも決して安全ではなく防災対策を今後どう進めるべきかという危機意識を参加者全員で共有できたことが大きかった。災害の危険性を知ること意識改革が起こり、計画作成の機運が盛り上がった。
- ・どこから計画作成に着手するか考えたとき、地域には既に組織図、係、タイムラインといったピースは出来ていたもので、それをまとめ上げるイメージで始めた。整理するという発想で捉えるとハードルが下がった。
- ・会議室で協議することも重要だが、実際にまち歩きをしてみたり、防災をゲーム感覚で実演してみたりと、色々な方法で試してみることが大切。また、多くの人に会議に参加してもらうために、地域のお祭りなどで、積極的に声掛けを行った。
- ・防災の取組がマンネリ化しないよう、子どもたちも参加できるようなゲーム感覚のワークショップを行うなど工夫した。

- ・避難所運営ゲームなどを活用して楽しみながら学ぶとよい。実際に避難所として使う学校の体育館で、避難所の開設準備や運営などを小学生から年配の方まで幅広い世代がみんなで一緒に考えながら取り組んだが、とても有意義なものとなった。
- ・計画は自然と出来上がるのが理想的。お互いの不安な気持ちを共有しようとするところから始まり、皆で集まって考え、他の視点から見返して、その作業を繰り返しているうちに練りあがった。過去の大規模災害と同じ災害がまた起きるから備えようではなく、日々の生活の中に自然と防災対策を溶け込ませることが大切である。

【計画作成を広めていくための具体的なアイデアや必要な取組】

- ・最初のステップとして、地区防災計画を作るという地域のコンセンサスを得る部分のハードルが高い。皆で必要性を共有し、少しずつでも進めていこうという声をあげ、どのように集まって協議をするか、という立ち上げの部分へのサポートが必要。
- ・コーディネーター役が必要。協議会は話し合いをする場で、民主的で楽しい場であること、参加の仕組みや集まる場所の雰囲気づくりも大切。
- ・防災には、例えば、高齢者の見守りが防災にもつながるように、色々な視点からのアプローチがあるため、どこから始めればよいか分からなくなる面がある。まずは、地域のリーダー等を対象とした防災を勉強する機会を設け、勉強したことを地域に持ち帰り、一つひとつ地域で吸収していけばよい。
- ・7月豪雨災害を経験した岡山県で、地区防災計画の取組を進めることは意義深い。行政が現場を訪問し、地域とともに考えるという姿勢を見せることが大切。
- ・他県で取組が進んでいる地域では、行政による表彰制度があると聞く。表彰制度を行政が創設すれば、それが地域にとっての「ハレの場」となり、それが地域の広報にも繋がり、取組が進むように思う。
- ・今回のモデル事業を活用した地区防災計画作成の取組は、他の地区の羅針盤となり、後押しとなる。

7 知事まとめ

- ・地域に合った取組をみんなで話し合いながら進めていくことが重要。楽しい要素も取り入れながら、多くの人に参加してもらうことで、防災力の向上に繋がる。各地域は工夫して災害に備えていかなければならない。
- ・県としても様々な取組を進めていきたい。